

# Data

「CT革命の次は、データ産業革命」という認識が浸透しつつある。その象徴の一つが、人工知能（AI）の急速な発達だ。例えば、AI開発ベンチャー企業、英ディープマインドの囲碁ソフト「アルファ碁」は、欧州チャンピオンに5戦全勝し、世界トップ棋士にも勝利した。また、価格や取引のビッグデータをコンピュータに蓄積し、ディープラーニングの手法などを用いて、数分後の株価などの予測能力を高めるAIの開発も進みつつある。これが、プログラムによって1秒間に数千回もの売買発注を行う「超高速取引」と融合すると、投資の世界は激変するだろう。

さまざまなモノがインターネットに接続され、情報交換することで相互に制御し合う仕組みであるIoT (Internet of Things) の関連市場も急速に拡大している。その背後ではAIやビッグデータ解析、3Dプリンター、ロボット等の活用を含め、世界では「データ」を新たな資産に位置付ける「データ産業革命」が起こりつつある。

## ビッグデータ・IoT・AI 新たな産業革命の波に 日本は追い付けるのか

**数字は語る**

法政大学教授  
小黒一正

# 約15%

ビッグデータ・IoT・AI等の  
関連市場の年間成長率

海外調査会社などによる予測

その際、特に注目すべきは関連市場の成長スピードである。海外の米ガートナー等の調査によると、ビッグデータ・IoT・AI等の関連市場は年間約15%で成長すると予測されている。この15%という値は、低迷する先進国の経済成長率、日本企業の株主資本利益率（ROE、8〜9%程度）やREIT（不動産投資信託）の期待利回り（4〜5%程度）などと比較すると、はるかに高い成長率だ。

このため、日本でも経済産業省などがビッグデータ・IoT・AI等の発展を推進するための組織「IoT推進コンソーシアム」を立ち上げ、産官学連携を進めているが、日本の前方には「ICT革命」の勝者である米アマゾンや米グーグル等の巨人が立ちはだかつており、その基盤はまだ弱い。

日本がグローバル競争を生き残るためには、既存の試みを強化するだけでなく、国内外から投資を呼び込むことも必要だ。オールジャパンの英知を結集し、何よりスピード感を持って「データ産業革命」に勝利する新たな戦略を構築することが望まれる。